

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	北
学 校 名	滝川小学校
学校長名	村上 昌志

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・滝川小学校では、第6学年 59名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語、算数、理科ともに大阪市及び全国平均を大きく上回る結果となった。平均正答率は大阪市平均と比べ、国語は9ポイント、算数は15ポイント、理科は16ポイント上回っている。また平均無解答率は国語が1.0%、算数は1.3%、理科は0.9%で、大阪市平均、全国平均と比べて良好な結果を収めている。児童質問紙についても、肯定的な回答をする児童の割合が多く、設問7「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、「当てはまる」と回答した児童の割合は78.0%で、大阪市平均より16.7ポイント、全国平均より17.3ポイント高い。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

すべての領域（「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）において、大阪市平均及び全国平均を上回っている。特に「読むこと」領域の平均正答率は68.2%で、大阪市平均より11.3ポイント、全国平均より10.7ポイント上回っている。学校司書による楽しい本の紹介や図書館ボランティア「ぶっくさん」による読み聞かせを通して、本への関心を高める取り組みの成果が表れたものと考ええる。

〔算数〕

すべての領域（「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」）において、大阪市平均、全国平均を上回っている。特に「数と計算」領域の平均正答率は78.8%で、大阪市平均より16.1ポイント、全国平均より16.5ポイント上回っている。デジタルドリル「ナビマ」を活用した基礎技能の定着に努めてきた成果が表れたものと考ええる。

〔理科〕

すべての領域（「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」）において、大阪市平均、全国平均を上回っている。特に「生命」を柱とする領域の平均正答率は71.6%で、大阪市平均より19.8ポイント、全国平均より18.4ポイント上回っている。学びを調整する学習サイクルによる指導を通して、児童自らがPDCAを意識した学習を進めることにより成果を残せたものと考ええる。

質問調査より

設問6「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対して肯定的な回答をした児童の割合は100%、設問7「将来の夢や目標を持っていますか」に対して肯定的な回答をした児童の割合は96.6%であった。友人や教職員とのコミュニケーションを通して自己肯定感を育んでいると考えられる。設問35「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対して肯定的な回答をした児童の割合は86.5%で、大阪市平均より3.7ポイント、全国平均より1.6ポイント上回っている。学校全体で学習活動のなかで振り返りの時間をしっかり確保し、互いの考えを交流する場を設けてきた成果が表れてきている。また、設問27「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」で肯定的な回答をした児童の割合は83.1%で、大阪市平均より4.7ポイント、全国平均より1.8ポイント上回っている。地域やPTAの方々力が結集して、数多く子どもたちを楽しませる取り組みを進めていることが要因として考えられる。

今後の取組(アクションプラン)

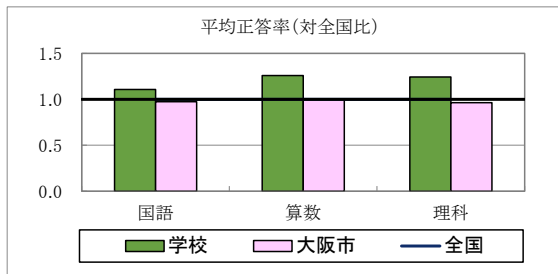
◇自らの学びを調整できる子どもの育成をめざして

児童質問紙設問40「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の設問に対して肯定的な回答をする児童の割合は94.9%であった。昨年度と比較して11.9ポイント上昇している。これは校内研究を通して、子どもたちの学習スタイルに「見通し」「行動」「振り返り」のAARサイクルが定着してきていると考えられる。一方、学校質問紙設問31「学習指導において、児童がそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか」に対して「どちらかと言えば、当てはまる」と回答しているので、児童が主体的に学習に取り組めるよう、AARサイクルを生かした深い学びの研究に努めたい。

【 全体の概要 】

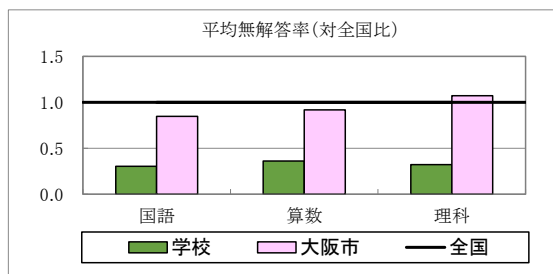
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	74	73	71
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	1.0	1.3	0.9
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



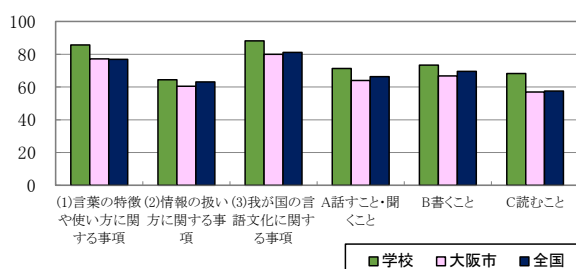
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	85.6	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	64.4	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	88.1	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	71.3	64.0	66.3
B 書くこと	3	73.4	66.7	69.5
C 読むこと	4	68.2	56.9	57.5

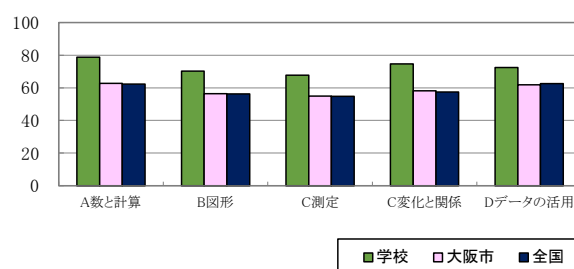
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	78.8	62.7	62.3
B 図形	4	70.3	56.4	56.2
C 測定	2	67.8	54.9	54.8
C 変化と関係	3	74.6	58.2	57.5
D データの活用	5	72.5	61.9	62.6

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)

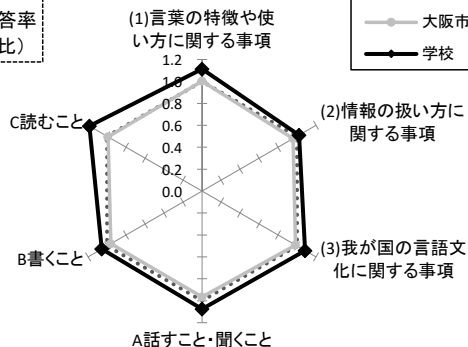


算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



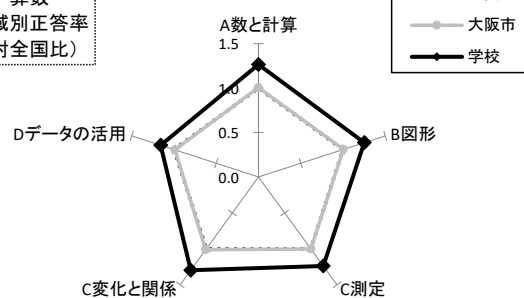
国語

内容別正答率 (対全国比)



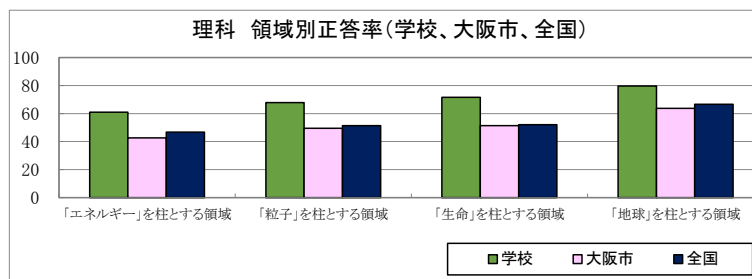
算数

領域別正答率 (対全国比)

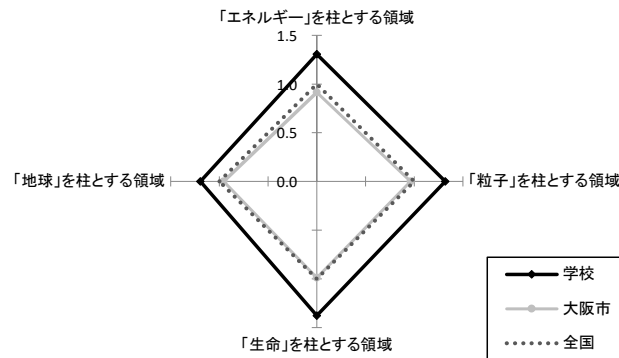


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	61.0	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	67.8	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	71.6	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	79.7	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

質問番号

質問事項

6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

1

2

3

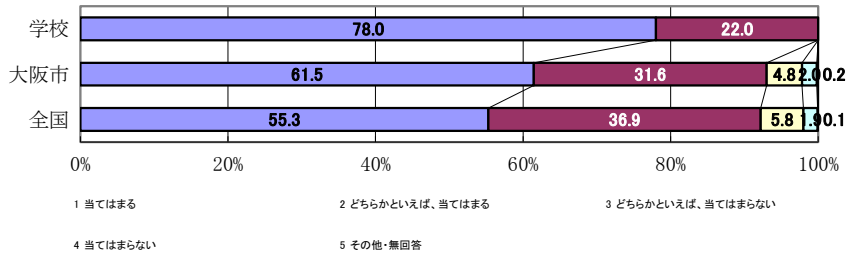
4

5

6

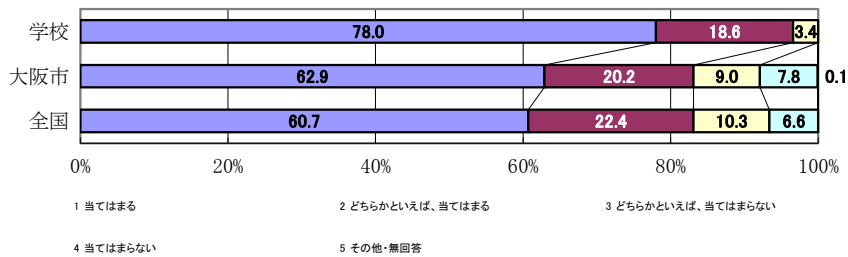
7

8



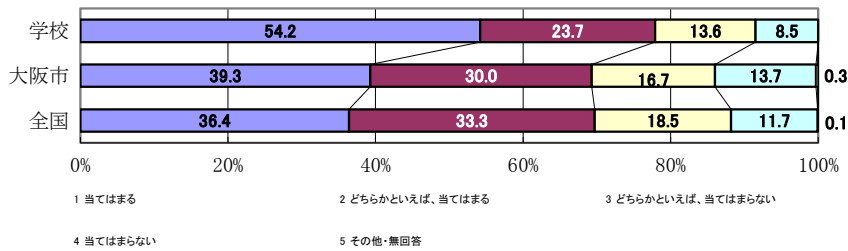
7

将来の夢や目標を持っていますか



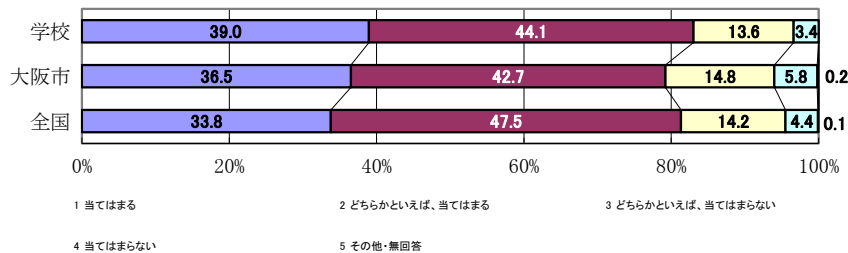
24

読書は好きですか



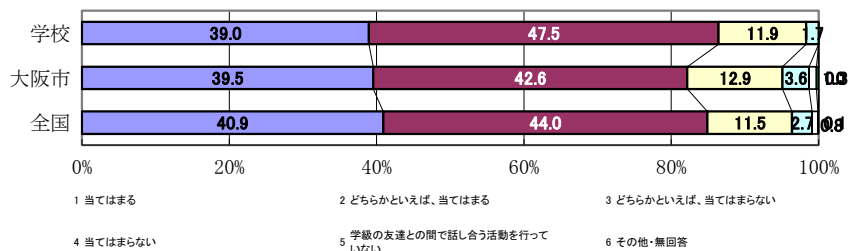
27

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



学校質問より

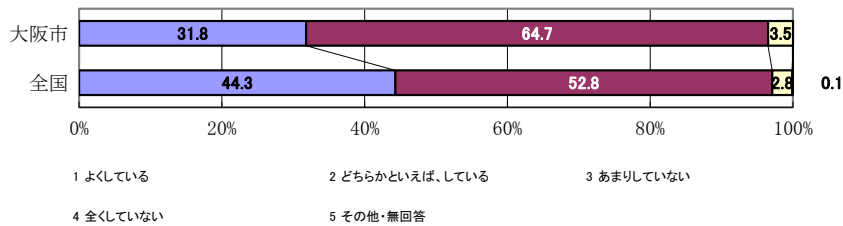
質問番号

質問事項

15

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

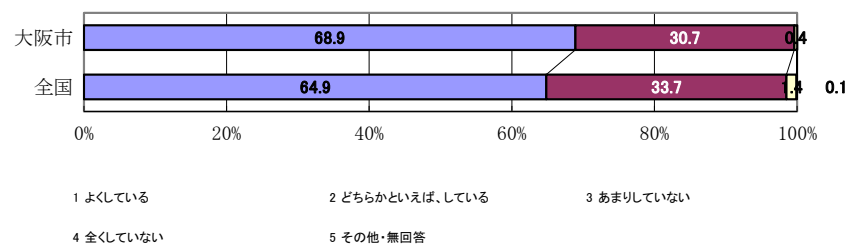
学校 「よくしている」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

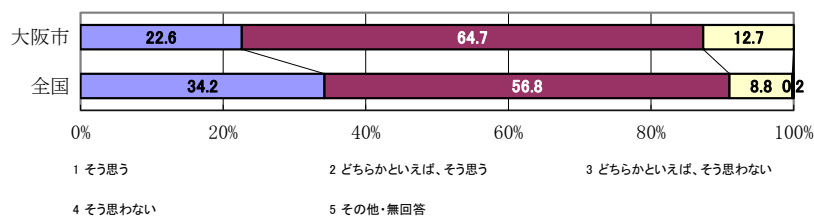
学校 「よくしている」を選択



22

今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか

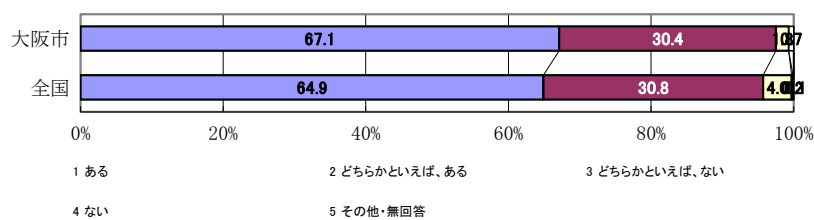
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



56

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか

学校 「ある」を選択



66

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

学校 「毎日持ち帰って、時々利用させている」を選択

